

＜背景＞

高度経済成長期に整備された橋梁やトンネル等の社会インフラの老朽化が進み、社会インフラ更新時期の本格的到来に備えた対応が、全国的な課題となっている。



【橋桁】



【舗装】



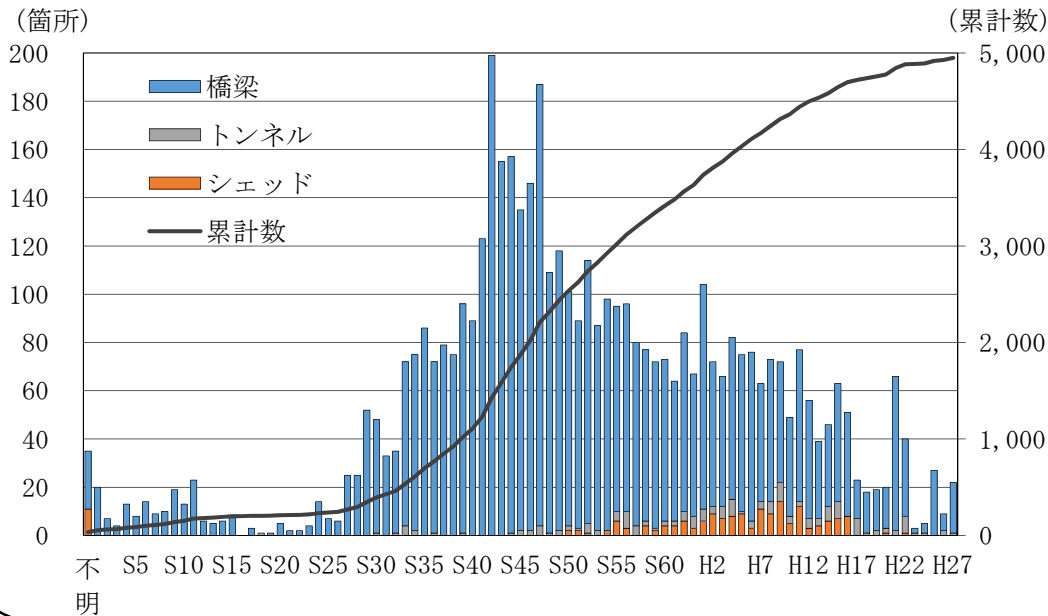
【スノーシェッド】



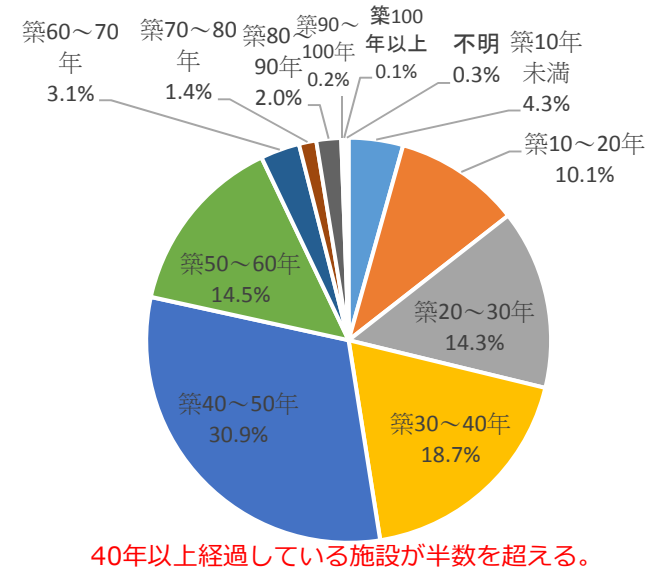
【樋門】

道路施設(福島県管理分のみ)の現況

【道路施設の建設年度ごとの施設数推移(H28.3現在)】



【道路施設の経過年数ごとの割合(H28.3現在)】



40年以上経過している施設が半数を超える。

福島県内における社会インフラの現況

福島県内の主な土木施設(全管理者分)

施設名	単位	管理施設数					出典
		計	内 訳				
			国	県	市町村	高速	
道路	km	39,153.1	492.6	5,619.2	32,647.2	394.1	道路統計年報2016 (国土交通省)
橋梁	橋	18,171	912	4,317	12,189	753	平成28年度 第2回福島県 道路メンテナンス会議 (東北地方整備局)
トンネル	箇所	241	35	154	25	27	平成28年度 第2回福島県 道路メンテナンス会議 (東北地方整備局)
道路付属物 (シェッド、歩道橋、 門型標識等)	箇所	866	183	419	65	199	平成28年度 第2回福島県 道路メンテナンス会議 (東北地方整備局)
河川	km	5,443.2	222.5	4,605.7	615.0	—	平成27年度 国土交通白書 (国土交通省)

福島県の面積が広く、多くの社会インフラを管理しており、維持修繕を実施するための点検・診断技術等を有する土木技術者が相当数必要となる。

また、日常的な維持管理や災害時の対応は、産業界と行政機関が連携して実施することが重要であるため、行政職員に関しても維持管理技術の習得が必要となる。



【点検】



【修繕】



【道路パトロール】



【出水時の対応】

福島県内における社会インフラに関する課題

<土木技術者の責務>

社会インフラは豊かな地域生活の実現、安全の確保、環境の保全等に寄与するため、維持修繕を実施し、将来にわたり安全なインフラサービスを継続的に提供する。

維持修繕に対する産・学・官それぞれの思い

【産業界】

専門分野だけではなく、横断的な知識や技術が必要となる。

【学識】

限られた予算や人材の有効活用を産学官が一体となり検討する必要がある。

【官公庁】

維持修繕は限られた予算の中で、効率的及び効果的に進めなくてはならない。

<県内での課題>

「県民の安全・安心を第一」に、「地域のインフラは、地域自らが守る」という認識は産学官共通であり、今後、安定的に適切な維持修繕(メンテナンス)を実施する必要があるが、維持修繕に必要な点検・診断技術等を有する土木技術者が不足しており、その人材の確保・育成が急務となる。

技術者不足という喫緊の課題を解消するために、『ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会(仮称)』を設立し産学官それぞれのノウハウを活かした技術者の育成に取り組む。

協議会設立総会までの経過概要

産・学・官それぞれにおいて現状把握・課題整理

H29.1.12 県建設業審議会による「今後の県内建設業のあり方」の答申

・インフラメンテナンス技術者の育成・確保に関する産学官連携強化を明記

H29.1.12 学から県へ産学官連携によるメンテナンスに係る技術者育成の要請

・県土木部として、産学官連携による枠組みづくりに積極的に取組むと回答

H29.2.23 第1回 産学官連携による技術者育成に関する意見交換会

・技術者育成のための共通スキームの構築について合意

H29.3.27 第2回 産学官連携による技術者育成に関する意見交換会

・産学官連携による協議会の設立について合意

H29.3.27 ふくしま建設業振興プランの策定

・産学官連携によるインフラメンテナンス技術者育成を明記

H29.5.17 協議会設立準備会

・技術者育成の方針及び協議会の体制について合意

H29.7.11 『ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会(仮称)』 設立総会